

おおとり会だより

幸せってなんだろう

おおとり会 会長

大石 邦枝



同窓生の皆様、お健やかでいらつしやいますか。今年もまた大雪に見舞われた地域も多かったのですが、北陸新幹線の開通などうれしいニュースもありますね。

私は最近、次のような歌に出会いました。一番のみですが記します。「幸せって何だろう 星に尋ねてみた みんな仲良くすることさ 星は答えた 大きなお陽さま中にして 九つの星が回る 愛の光を受けながら これが幸せ」

気持ちがあほりしませんか。すべての人に公平に愛を注ぐ自然に感謝ですね。

一〇〇歳の戦争絶滅を訴え続けているジャーナリストむのたけしさんは、「年を取れば体は動かなくなり、生きるのが大変になるが知恵や経験は増え続けている。死ぬ時が人間てっぺん」と一〇〇歳の集いで挨拶をしたとありました。確かに新聞、テレビ、人との会話等、歳をとっても日々学ぶこと、教えられることは多いです。学べることは幸せですね。残念なことに忘れることも多いですが、

以前にも書かせて頂きましたが、おおとり会は皆さんの善意で成り立っています。年会費として徴収してませんが、二年に一度の基金のお願いでなんとか会報を発行し、総会も行っています。おおとり会が存続し、活動が続けられるよう皆様のご協力よろしくお祈りします。

平成二十六年度 総会報告

平成二十六年六月八日(日)、静岡県立大学にて、おおとり会総会が開催されました。当日は、県立大学の奥副学長をはじめ来賓の方々、恩師の天津山先生、中田先生、金井先生、同窓生九十五名(国文十四名、英文二十四名、食物三十六名、被服二十一名)の皆様の参加で行われました。

第一部総会では、奥副学長より御祝辞を頂戴し、その後、平成二十五年事業報告、決算報告、会計監査報告、更に二十六年度の事業計画、予算の提案があり承認されました。二十六年のおおとり会賞はラグビー部が選ばれ、学生さんからあいさつがありました。



第二部は、静岡市出身のフラワアーティスト村松文彦さんの、実演を交えての講演「花を通じて世界をつなぐ」でした。村松さんは、

ワールド

カップで日本人では初めて優勝され、国内外で活躍されています。今年度は浜名湖花博でメインオブジェ作りに携わられました。

「静岡はバラやガーベラなど花の産地なので、良い花が手に入る。日本の男性は女性にお花のプレゼント



をするべきだ。」等という興味深いお話しをしながら、バラをふんだんに使ったり、巨大なぜんまいのような植物を使った作品などを創り上げました。出来上がった作品は抽選で出席者にプレゼントさせていただきます。

第三部の懇親会では、恩師の先生のお話しを伺ったり、久しぶりに会う同窓生との会話が花が咲きました。今回は全員が座れる椅子とテーブルが用意されました。そのテーブルには、村松さんに生けて頂いたアレンジメントが置かれ、華やかな中にも、ゆったりとした時間を過ごしました。閉会後には、アレンジメントも抽選で会員の方々にプレゼントされました。



当選者の皆さん

当番幹事 食物学科 (大学九回卒)



輝く女性シリーズ I



「想うこと」

静岡雙葉高等学校・中学校

校長 渡邊 治世

国文学科（大学一回卒）



草薙駅から山道を登ると見えてくる白い校舎、周りにはお茶の木と柿の木が生え、自然に恵まれた環境であった。ベビーブームの時代、新設の女子大学は注目され、入試倍率も高かったように記憶している。四年間はアットホームな感じで過ぎていった。今、考えると、社会に出る前に、多様な価値観に触れ、批判精神をも養っていた時間であった。中学、高校とは違った考え方をする仲間と出会い、とまどいながらも自己の立ち位置を模索していたような気がする。

静岡県から「輝く女性」を輩出するという意図を持って県立静岡女子大学が創設されたように思う。現在、社会では「女性の登用」が政策として実行されている。そういうことを考えれば、静岡県の四十余年前の政策は、先見の明があったと言えるのかもしれない。先日、新聞のインタビュー記事に現在の

女性政策に対して詩人・社会学者の「水無田みなした気流きりゅう」さんが次のように答えていた。

現在の「女性政策は経済成長のため以外考えていないのが大きな問題です。経済成長にプラスならば女性を活用しようという視点しかなければ、もし経済成長にマイナスなら、あっさり女性を切り捨てることにもつながりかねない。女性の権利や幸福を守ることが抜け落ちたままです。」

確かにその通りである。しかし、現在まで、国の政策として「女性の登用」という目で、働く女性に目を向けたことはなかった。そう考えれば、今は女性に対する視点の転換期である。その時、忘れてはならないことは、長い歴史の中で、大声で権利を主張するのではなく、黙々と仕事をし、改革をし続けた多くの女性たちがいたと言うことだ。歴史は誰かの一声によって簡単に変わるものではないだろう。無名の多くの人々の努力が積み重ねられていく中に、変革への挑戦者が現れ、変わっていくものかもしれない。坂口安吾は文学の価値を認めようとしないう時代にあつて、二葉亭四迷の「文学は男子一生の業にあらず」の言葉に反し、小説家としての生き方の中にも歴史を、社会を変革する可能性のあることに自身の人生を賭けようとしたと表現している。

「女性の権利、幸福を守り、女性の感覚を社会の中で生かすためには、これからの女性の地道な努力と挑戦が必要であろう。時流に流されず歩み、チャレンジしていく女性、人間がグローバルな社会の中では求められているのかもしれないと、この頃痛切に感じている。そんな生徒を育てたいと日々、悪戦苦闘している。

はばたき寄金

平成二十六年度『おとり会賞』は、左記の団体が選出され、平成二十六年四月二十二日に行われた開学記念行事において、木苗学長から表彰されました。

ラグビー部

今年度、東海学生ラグビーCリーグ二位という結果を収めることができました。毎年人数不足で、練習も十分にできない状態でしたが、新入部員増加と、本格的な夏合宿を含めた、日々の激しい練習の積み重ねが実を結びました。



部長さん達四人の部員と懇談させて頂きましたが、真面目で真摯な姿勢に頼もしさを感じました。目標のBリーグ昇格を応援します。

学びが生きがいに

被服学科 (大学一回卒)

佐々木由美子



早いもので大学卒業後四十五年近くが経ちます。一昨年お誘いを受け、初めておとりの会総会に出席し、歴史ある会の一員である事を心強く思いました。茶畑の上にボツンと建った大学も、今では学園都市の立派な大学に変わりました。被服学科がなくなつた事はさみしいですが、感無量の思いです。

大学での専門課程で、吉川正己先生の御指導

憧れのプリンス

エドワード島への旅

食物学科 (大学四回卒)

肆よ矢和子



島エドワードプリンス「赤毛のアン」の家の前で

およそ二十年振りの海外旅行。中学時代に憧れた「赤毛のアン」の舞台、プリンスエドワード島とナイアガラ滝を訪れました。きっかけは同窓会六十周年記念総会での旅好きの友との再会でした。

パスポートの申請、現地の天候や持ち物等の情報集めの後、いざ時差十二時間、飛行時間十五

を受けることができ、のんびりムードの私達は中央の風を送っていただいた思いました。私はその中で「工芸」特に手工芸に自分の適性を見つけ、染め織りの世界に、との夢を抱きました。卒業後は高校の教師として、結婚後は生活に合わせながら講師として、それぞれの場場で有意義な日々を送りました。

「手仕事を生活の場」に、との学生時代の夢は五十代に入ってから実現し、今に至っています。仕事ではありませんが、今の私の大切な生きがいになっています。年を追うごとに草木の持つ色に魅せられ、染める度に新鮮な喜びや発見があります。そしてその糸を大切に織っていく。昨年は葛布作り挑戦。草木の賜物と先人の知恵に感嘆しています。後に習うだけですが、楽しい日々です。一日一日を大切に過ごしていきたいと思っています。

時間のワクワドキドキの出発でした。トロントでカナダ大陸。国内線に乗り継ぎ、島の州都シャーロットタウンへ。島全体が穏やかで、空の青さ、緑の草原、赤土の大地のコントラストは写真で見たままで世界で一番美しい島は本当でした。住民もとてもフレンドリーで親切でした。「赤毛のアン」の舞台アヴォンリーのモデル地、キャベンディッシュでは、グリーンゲルブルズの家を始め、様々な建物が気候のせいか保存も良く、百年以上前の建築当時そのままに残っています。建物の中を見学し、「お化けの森」、「恋人の小径」を散策して、アン気分になりました。日本ではほとんど食べることのないロブスターやムール貝等の海産物や特産のじゃが芋、野菜を使った料理、アフタヌーンティー形式の昼食等、食事も楽しめました。こうして六日間の楽しい旅も無事終わりました。

みなさん お元気ですか

還暦同窓会

国文学科 (大学五回卒)

鈴木郁子

私達国文五回生は一昨年の秋「なごやか同窓会」を開催、卒業以来、三十八年ぶりに二十六名の方々と再会しました。学生時代の思い出や近況など話す友の横顔は、瞬時に若き日と重なって懐かしく、濃厚で飾らない、個性的な静岡女子大の気風が確かにあること、この素敵なお仲間とともに過ごした学生時代が遠い昔のものではなく、今につながる大切な時間として甦ってきました。同窓会学年幹事山本さんからの賀状、「まんなかの名古屋で同窓会できないかしら」のひとことがきっかけとなり、安倍川堤の桜吹雪の下でそぞろ歩き会

草薙の丘で

学んだこと

英文学科 (短大十五回卒)

亀岡敦子

私たち短大英文科十五回生は、一年目を大岩校舎で、二年目をミカン畑に出現した白亜の草薙校舎で学んだ学年です。国文科との合同授業でも八十人ほどの贅沢さ、選択科目は少人数のゼミのようでした。授業内容は殆ど憶えていませんが、学問の大切さと面白さに触れていたのか、四十歳過ぎて横浜市日吉に居を定めた時、迷うことなく慶應義塾大学文学部の通信教育課程に入学しました。

通信教育は、テキストでの自己学習とスクー

談、愛知在住の方々にも相談したところ「還暦という節目の時に会うのはこれからの人生にも意味がある」とのひと言で同窓会プロジェクトが動き出しました。会場係、通知係と分業で、また出欠は電話でそれぞれの交友関係にお任せし、当日を迎えることができました。女のネットワークはさすがと思わざるを得ません。「六十五歳の時に東京で」との約束まであと三年・・・。今回、諸事情で参加できなかった方々ともお会いできることを楽しみにしています。



リングの両方で単位を取得し、勉学の仕上げとして卒業論文を提出します。年齢と共に記憶力は衰えますが、理解力は深まり、家庭の事情や病気で中断しましたが、諦めることなく六十七歳で卒業することができました。そして今、様々な地域活動に参加して自分の役割を果たすことができているのは、二十歳の冬のクラス一丸の英語劇「ベニスの商人」の経験が根底にあるように思います。



「お元氣です」

平成26年度 総会案内の
恩師返信より

吉田金彦先生

参上して皆さんにお目にかかり、海山の話もさせて頂きたいのですが、何分腰も曲がり耳も遠くなつて御迷惑をかけることになりそうなので、『心』は参加してはいますが、『身』は欠席ということになるうかと、あしからずお許し下さいませ。おおりのように空高く飛びまわって下さい。

畑 光夫先生

84才、普通の生活は出来ています。ヘブライ語の旧約聖書、ギリシャ語新約聖書を毎日読んでいます。

近 雅代先生

やっと退職できました。四月に食物学科一回生の佐々木福子さんの一周忌の参りに奈良に行ってきました。ついでに吉野の桜、山野辺の道、根尾の淡墨桜なども見てきました。さらに高遠の桜、三春の滝桜、角館のしだれ桜、弘前城や盛岡の石割桜など見られました。遊びまくるぞ！という気満々です。その前に足の骨に入っている金属をとり出さなくては いけません。

復本 一郎先生

今年二月、『歌よみ人正岡子規』（岩波現代全書）を出しました。ぼつぼつやっております。

板井隆彦先生

体に不安をかかえつつも、なんとか古希を迎えました。県立の自然史の博物館も来年四月に発足する予定ですが、その下支えをするNPOの一員として微力ですが尽くしたいと思えます。場所は先年まで県立静岡岡南高校のあったところです。

剣祭・バザーから

平成二十六年十一月一日、県立大学において剣祭が開催されました。昨年は台風のため参加を見合わせるなど、最近は天候に恵まれず、今年こそ良いお天気にと期待していたのですが、なんと無念の雨空。そんな悪天候のなかでも、名物のおでんやタイカレーを始め会員手作りの食品やお手玉・袋物などの手作り小物、今年はさらに会員が講師をしている日本語学校のインドネシア人の生徒さんがお国の料理を出品してくださったり、多くの方のご協力を頂きました。例年通りお昼過ぎには殆ど売れてしまう程大好評でした。

国文学科(大学十回卒) 井上明子



平成25年度 決算報告書

総収入 13,032,621円 総支出 3,308,370円 残高 9,724,251円(繰越金)

自平成25年4月1日
至平成26年3月31日
(単位:円)

収入の部				支出の部					
費目	予算額	決算額	増減	備考	費目	予算額	決算額	増減	備考
受け取り利息	10,000	21,046	11,046	定期貯蓄・通常貯蓄・静観定期	事業費(一般)	200,000	3,043	▲196,957	剣祭材料費
基金入金	200,000	2,260,300	2,060,300	370件	事業費(特別)1	1,600,000	1,483,999	▲116,001	7/7が会報・コンナト大学・総会・総会への総会誌
剣祭収益金	60,000	0	▲60,000	台風のため参加取りやめ	事業費(特別)2	0	1,000,000	1,000,000	大学へ寄付(基金より)
雑収入	0	3,675	3,675	総会記念品返品	会議費	100,000	61,939	▲38,061	役員会・理事会・当番幹事会・会報編集会議
					印刷費	300,000	329,910	29,910	会報・総会案内状・会議用資料
					通信費	400,000	404,755	4,755	会報・総会案内状発送・会議通知
					慶弔費	50,000	0	▲50,000	
					事務雑費	20,000	9,112	▲10,888	AO用紙・インク代
					予備費	30,000	15,612	▲14,388	敦竹澤好美様記念品 他
小計	270,000	2,285,021	2,015,021		小計	2,700,000	3,308,370	608,370	
前年度より繰越	10,747,600	10,747,600	0		次年度へ繰越	8,317,600	9,724,251	1,406,651	定期貯蓄・通常貯蓄・現金
総計	11,017,600	13,032,621	2,015,021		総計	11,017,600	13,032,621	2,015,021	

上記のとおりご報告致します。

平成26年3月31日

会長/大石邦枝

会計/瀧浪恵子・赤堀美里

監査の結果、相違なく適正と認めます。

平成26年4月12日

会計監査/谷 薫

平成26年度 予算

総収入 9,904,233円 総支出 9,904,233円 残高 0円

自平成26年4月1日
至平成27年3月31日
(単位:円)

収入の部				支出の部					
費目	26年度予算額	25年度予算額	増減	備考	費目	26年度予算額	25年度予算額	増減	備考
預金利息	20,000	10,000	10,000	定期貯蓄・通常貯蓄	事業費(一般)	200,000	200,000	0	総会・剣祭・会報
基金入金	100,000	200,000	▲100,000		事業費(特別)	0	1,600,000	▲1,600,000	
剣祭収益金	60,000	60,000	0		会議費	100,000	100,000	0	役員会・理事会・当番幹事会・会報編集会議
					印刷費	300,000	300,000	0	会報・総会案内状・会議用資料
					通信費	400,000	400,000	0	会報・総会案内状発送・会議通知
					慶弔費	50,000	50,000	0	
					事務雑費	20,000	20,000	0	AO用紙・インク代・文具等
					予備費	30,000	30,000	0	
前年度繰越金	9,724,233	10,747,600	▲1,023,367		次年度繰越金	8,304,233	8,317,600	486,633	
総計	9,904,233	11,017,600	▲1,113,367		合計	9,904,233	11,017,600	▲1,113,367	

*他費目への流用を認める

計報

平成二十六年十二月二十八日

元一般教養学部教授

野内良三先生(七十一才)

御冥福を心からお祈り申し上げます。



編集後記

新しく「輝く女性シリーズ」を企画致しました。自薦でも構いませんので、輝く女性をご紹介します。会報が充実した人生の後押しになればいいなと願っています。皆様の近況報告もお寄せ下さい。

編集委員

大石邦枝・青木則子・石田加苗
井上明子・高橋節子・森 恵美